

# 第7章

## 景観形成の作法

この章では、景観形成を推進していく際、どのような点に気を付ければ良いかなどの配慮事項（作法）を整理しています。

建築物、工作物、屋外広告物などを整備する際に活用してください。

また、色彩に関する豆知識も掲載しています。

ここでは、建築物、工作物、屋外広告物を整備したり、緑化を行ったりする際の、景観形成に取り組む視点や配慮事項などについて示しています。なお、景観形成に取り組む際には、誰もが隔たりなく利用できるユニバーサルデザイン<sup>\*</sup>への配慮や、生物多様性<sup>\*</sup>の保全、地球温暖化の抑制、<sup>ひかりがい</sup>光害<sup>\*</sup>の防止をはじめとした環境への配慮にも心がける必要があります。

## (1) 自然景観

### ■ 建築物

- ・背景の山並みなどの自然景観との調和に配慮し、規模、配置、形態、色彩などを工夫する。
- ・田園などの広がりのある地域では、眺望に配慮して、規模や形態、色彩を工夫する。

### ■ 工作物

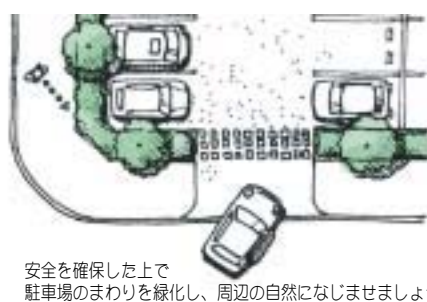
- ・工作物は、道路などからできるだけ目立たないよう眺望に配慮する。
- ・消波ブロックや擁壁、護岸などの構造物などを設置する場合は、周辺の景観とけいむするように、規模、配置、形態、色彩、緑化などを工夫する。

### ■ 屋外広告物

- ・自然景観が豊かな地域では、可能な限り設置しない。
- ・やむを得ず設置する場合は、最小限の規模や数とする。また派手な色彩は用いない。

### ■ 緑・あかり

- ・建築物や工作物を設ける場合は、その周囲に当該地域に自生する樹木や草花を植栽する。
- ・四季の移り変わりの感じられる樹木や草花を植栽する。
- ・生態系や農作物、星空などへの影響に配慮し、光漏れを防ぎ、必要な範囲のみ照射する。



※印のある用語は巻末に解説を掲載しています。

## (2) 歴史景観

### ■ 建築物

- ・ 永年受け継がれてきた地域固有の建築様式に沿った形態意匠とする。
- ・ 周辺の歴史的な趣との調和に配慮して屋根や外壁に用いる素材や色彩を工夫する。



周辺の歴史的な趣との調和に配慮しましょう

### ■ 工作物

- ・ 周辺に建つ建築物の形態意匠や歴史的な趣を有するまち並みに溶け込むよう、形態や素材、色彩などを工夫する。
- ・ 自動販売機や空調室外機などは、色彩に配慮し、囲いの設置や周囲の緑化などにより目立たないように工夫する。



空調室外機などは、目立たないようにしましょう

### ■ 屋外広告物

- ・ まぶしい電飾広告や誇大なものは可能な限り設置しない。
- ・ 形態、素材、色彩は歴史的な趣に調和する落ち着いたものとする。



歴史的な風情を残す建物やまち並みには、調和のとれた落ち着いたもののある屋外広告物を設置しましょう

### ■ 緑・あかり

- ・ 地域に残された貴重な樹木を保全し、それらの資源を活かしつつ、周辺の景観形成に努める。
- ・ 歴史的な趣の感じられる建築物の規模とのバランスに配慮して樹木や草花を植栽する。
- ・ 光源の種類や配置などを工夫し、歴史の趣を感じる夜景を演出する。



地域の財産として大切に保全するとともに、周囲を美しく演出しましょう

### (3) 生活景観

#### ■ 建築物

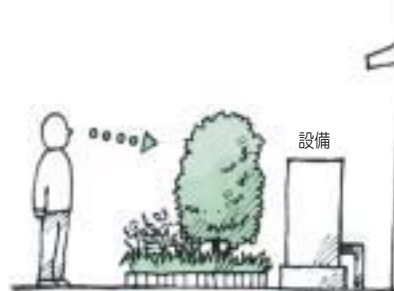
- ・ 集合住宅などの大規模な建築物は、周辺に圧迫感を与えないよう、高さを低くしたり、分棟化したりする。
- ・ 周辺の住宅地景観との調和や、まち並みとしての連続性に配慮して、屋根や壁面は、共通の素材や色彩などで揃える。



大規模な建築物は分棟化するなど、周辺の建築物のスケールと調和するように配慮しましょう

#### ■ 工作物

- ・ 周辺の住宅地へ圧迫感等を与えないよう、位置や規模、形態などを工夫する。
- ・ 周辺のまち並みにとけ込むよう、構造や素材、色彩を工夫したり、周囲に緑化を行うようにする。



周囲を緑化し、通りから直接見えにくくしましょう

#### ■ 屋外広告物

- ・ 住宅地では、可能な限り設置しない。
- ・ やむを得ず設置する場合は、最小限の規模と数とし、形態、素材、色彩は周辺と調和するよう配慮する。



最小限の大きさとして、周辺のまち並みとの調和に配慮しましょう

#### ■ 緑・あかり

- ・ 四季の移り変わりの感じられる樹木や草花を、敷地内に植栽し、また屋上や壁面の緑化にも努め、連続した緑を創出する。
- ・ 定期的な剪定を行うなど、適切な維持管理を行う。
- ・ 安全性に配慮しながら、門灯や街路灯などによりあたたかみのある、落ち着いた夜景を演出する。



まち並み全体を大きな緑の空間として捉え、演出しましょう

## (4) 産業景観

### ■ 建築物

- ・ 周辺の建築物の規模やまち並みとのバランスに配慮して、形態や色彩を工夫する。
- ・ ヒューマンスケール<sup>\*</sup>に配慮して、人にとって心地よいまち並みを形成する。



だれもが使いやすい空間となるよう配慮しましょう

### ■ 工作物

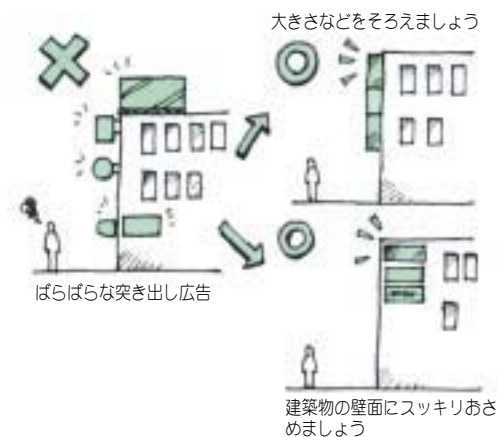
- ・ 空調設備などは建築物と一体的な形態意匠の囲いを設けて調和を図る。
- ・ 煙突や鉄塔等の工作物は、周辺の景観との調和に配慮して色彩や形状を工夫する。また周囲には、植栽を施し、周辺の景観に馴染むようにする。



建築物と一体的なデザインとなるようにしましょう

### ■ 屋外広告物

- ・ 建築物の規模とのバランスに配慮して設け、複数店舗が入居する建築物では、集合化を図る。
- ・ 掲出する規模や数は最小限とし、またデザイン性に優れたものとする。



### ■ 緑・あかり

- ・ 工場の敷地では出入口や境界付近を緑化して、周辺に与える圧迫感や威圧感を軽減する。
- ・ 商業地では店先に樹木や草花を植栽して、緑豊かなまち並み景観を形成する。
- ・ まぶしさを感じさせない適度な明るさとし、光源の色彩や配置、光の方向などを工夫し、魅力的な夜景を演出する。



工場の外周を緑化し、周辺の景観と調和させましょう

## 色彩に関する豆知識

建築物、工作物、屋外広告物における外観の色彩は、景観に大きな影響を与えます。ここでは、建築物、工作物、屋外広告物を整備する際に知っていただきたい色彩に関する豆知識を紹介します。

### マンセル表色系による色彩基準

色彩を示す方法はさまざまありますが、景観に関する色彩を表す場合は、日本工業規格 JIS Z8721 に定める「色相」「明度」「彩度」の3つの属性の組合せで表す「マンセル表色系」が主流となっています。

これは、「マンセル」が世界共通の基準を用いているということ、また、色彩を示す記号（例：5Y8/2：（色相・明度/彩度）次頁参照）を見れば、色見本帳が無くても、おおよその色が想定可能であるということからです。

以下に、マンセル表色系の概要を示します。

#### ■色相：色合いを表します。

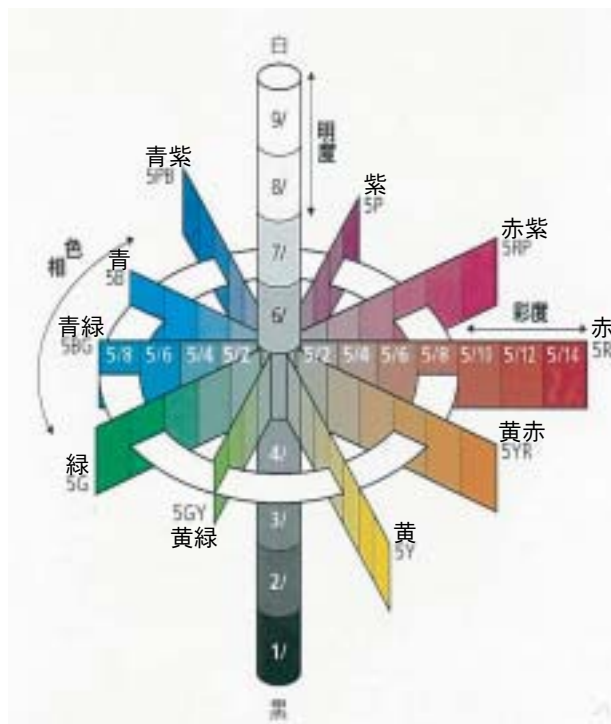
色相は、赤(R)、黄赤(YR)、黄(Y)、黄緑(GY)、緑(G)、青緑(BG)、青(B)、青紫(PB)、紫(P)、赤紫(RP)の10種の基本色で構成します。また、色が赤(R)から黄赤(YR)へ変化するグラデーションを等分して、赤の基本色を示す記号(R)の前に0から10の数字を付けて、それぞれの色相を細かく表記します。なお、0Rは10RPと同じで、10Rは0YRと同じです。(0R(=10RP)→1R→2R→3R→4R→5R→6R→7R→8R→9R→10R(=0YR))。

#### ■明度：色の明るさを表します。

色の明るさを最低明度である黒の0から、最高明度である白の10までの数値で表します。暗い色ほど数値が小さく、明るい色は数値が大きくなります。

#### ■彩度：色の鮮やかさを表します。

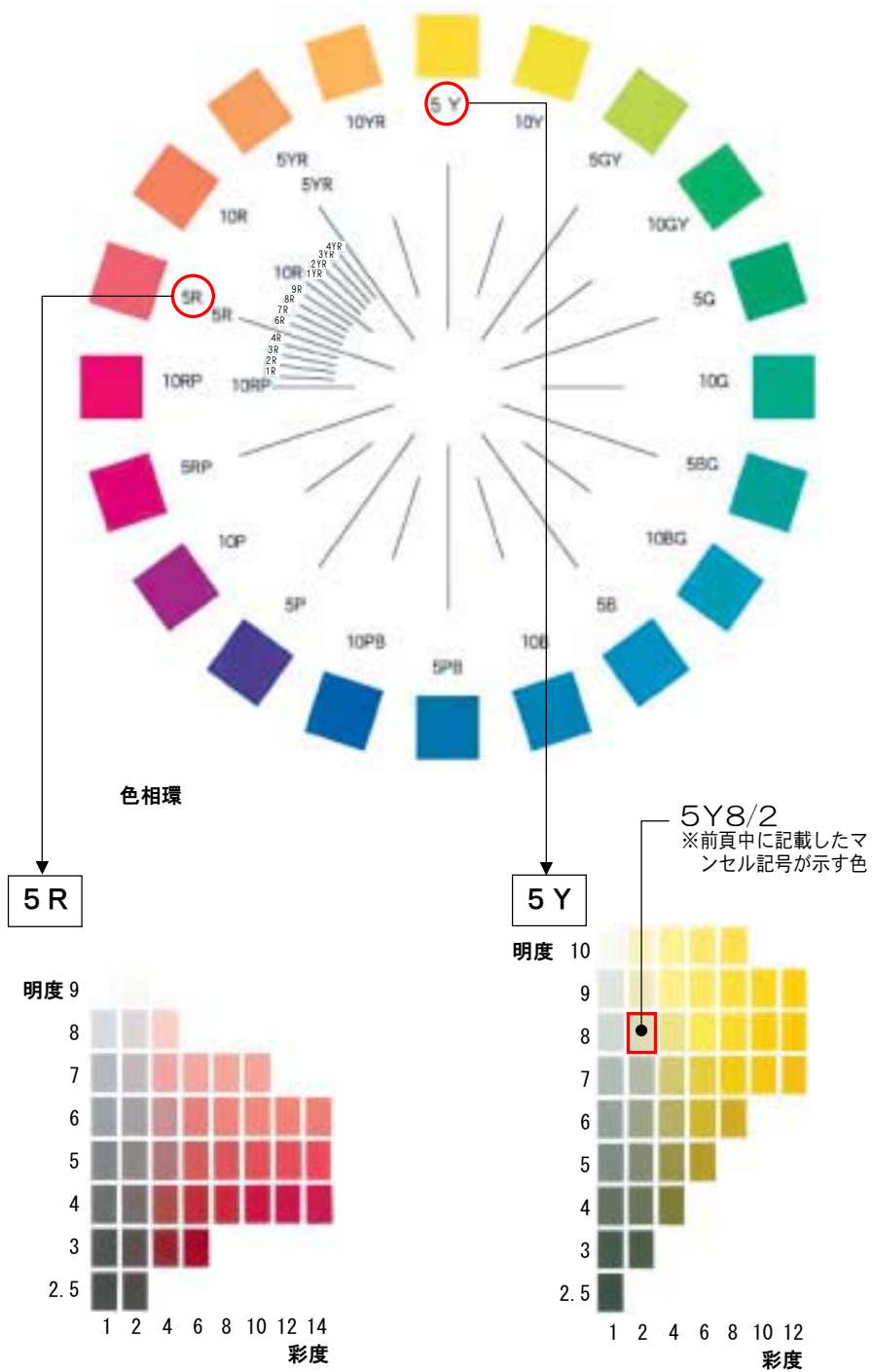
色の鮮やかさを白、灰、黒色の無彩色を示す0から数値で表し、鮮やかな色になれば数値が大きくなります。なお、表現できる最高彩度は色によって限界があるため、色相ごとに彩度の最高尺度は異なります。色味のない鈍い色ほど数値が小さくなり、一方、鮮やかな色になれば数値が大きくなります。



※印のある用語は巻末に解説を掲載しています。

10種の基本色を細分化して環状に配置したものを色相環といい、以下に示すような図で表現されます。

それぞれの色相に対して、明度と彩度で表す色の分布図があります。



## 誘目性～目立たせる景観と馴染ませる景観～

景観の中には、様々な色彩が混在しており、それらの中には、場の象徴として目立たせるために明度や彩度を高くしているものと、周囲の景観に馴染ませるために明度や彩度を低くしているものがあり、その秩序が良好に保たれている景観が美しく快適な景観として評価されます。

一般的に景観の中で目立たせるべき色彩は、信号や標識のように重要な情報伝達を担うもの、花や緑のように小さなものや季節等によって変動するもの、一時的に使われる祭事の装飾などです。

一方、道路などの景観のベースとなっているものや、建築物、工作物、屋外広告物などのように大きな面積をもち一年を通して同じ場所にあるものは、景観のベースとなることから、周囲に馴染むような低彩度の色彩を基本とし、生活に欠くことのできない情報や生活にうるおいや季節感を与えてくれる四季の花々などが際立つようにします。また、建築物などの外観の一部や低層部において、アクセントとなる中彩度の色彩等を用いることで、まち並みに適度な変化やリズム感を与えることもできます。

